

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 12 日現在

機関番号：15501

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2012～2013

課題番号：24830055

研究課題名(和文) 中学校国語年間カリキュラムにおける古典学習指導の機能と役割に関する研究

研究課題名(英文) Study on function and role of the classic learning instruction in the junior high school national language annual curriculum

研究代表者

坂東 智子 (BANDO, TOMOKO)

山口大学・教育学部・准教授

研究者番号：60634764

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,900,000円、(間接経費) 570,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では大村はまが昭和54年度に行った中学1年生の国語年間カリキュラムの内実を学習記録を研究資料として具体的に解明した。

1年目は資料を収集し、3資料(国語学習項目一覧表、配布プリント一覧表、プリントの具体)を作成した。昭和54年と50年の3資料を比較することにより、中学入門期の年間国語カリキュラムにおいて大村はまが何を目標としていたのかを解明した。54年は「自分の学び方を育てる」ことを目標に、年初から「学び方」を学ぶ学習が行われ、年間を通して繰り返し行われた。カリキュラムの具体は全国学会で2度報告した。さらに、古典学習で育成する国語学力の構造化案を論文で発表した。

研究成果の概要(英文)：In this study, I used the learning record of the learner as data for the study. I elucidated the actual situation of the one-year national language curriculum of the junior high school first grader whom Hama Omura instructed in 1979.

I made 3 documents in the first year. (1) The concrete content of the national language learning item table, (2) distribution print table, (3) print. Then, I compared 3 documents of 1979 with 1975. As a result, in national language curriculum of the junior high school guide period, the thing which Hama Omura aimed for was shown concretely. In 1979, Hama Omura taught a learning method eagerly. I reported a curriculum of 1979 twice. Furthermore, I suggested a concrete plan of the national language scholastic ability to raise by classic learning.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学教科教育学

キーワード：国語科教育 古典教育 大村はま 中学校 学習記録 カリキュラム

1. 研究開始当初の背景

(1) 現行の学習指導要領では、小中高等学校の国語科に〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕が新設された。国際化、情報化が進む中で、なぜ古典教育が重視されるのか。古典教育でなければならない独自の機能と役割は何か。教室内の机上の知識や教養ではなく、学習者の言語生活に培う古典教育のあり方を考究する必要がある。

(2) 大村はまは、単元的展開の古典学習指導を戦後一貫して実践し続けた。大村公職最後の1979年は国際児童年であった。そのため、国語年間テーマとして「子どもの生活」が設定され古典も「古典の中の子ども」というテーマで行われた。学習方法も他の学習と連続し、古典は年間国語カリキュラムにしっかりと組み込まれたものであった。

(3) 先行研究は大村の個々の単元の解明が中心で、年間カリキュラムの全体像を捉える研究は未開拓であった。筆者は1979年の年間学習項目を調査により明らかにし、全国規模の学会誌に論文を発表した。本研究はこれまでの研究を継続発展させるものである。

2. 研究の目的

(1) 大村はまの1979年の国語年間カリキュラム(中1)を学習記録を研究資料として具体的に解明する。

(2) 中学校入門期の古典学習と他の国語学習との連関関係や年間国語学習で古典学習が担っていた役割を明らかにする。

(3) 昨今指摘されている古典嫌いや学習者の実生活との乖離、国語学力育成に結びつかないといった諸課題への改善の視点を探り国語学力に培う系統的な古典指導構築に向けての具体的な提案を行う。

3. 研究の方法

(1) 鳴門教育大学大村はま文庫において研究協力者と学習記録を閲覧し資料収集を行い必要に応じて活字化・PDF化する。現場の先生と収集した資料をもとに協議し問題意識を共有して資料分析をする。

(2) 収集整理した資料をもとに1979年と1975年の中学校1年生の年間国語カリキュラムをa国語学習項目一覧表、b配布プリント一覧表、cプリントの内容の3資料を作成して比較し、大村はまが中学入門期の国語年間カリキュラムで目指していたものの具体を明らかにする。

4. 研究成果

(1) 国語学習項目の比較

1975年度石川台中学1年A組で全学期の記録が残されている2名の学習記録をもと

に資料1を作成した(1学期のみ記載)。

資料1 1年A組1学期 国語学習項目

時	月日	学習内容
1	4/14	一. 私は あの人は 二. お話
2	4/18	一. 学習記録を見て
3	4/18	
4	4/19	読書生活の用意
5		
6	4/22	一. 国語教室通信について 二. いろいろのプリントにあることばについて
7	4/23	一. 「読書日記」の書き方 二. 回して読む本 三. 「題材集め」について 四. 「読みたい本」を書く
8	4/26	一. 教科書を見る 二. 便覧を見る 三. 文法の本を見る
9	4/26	
10	4/30	一. お話
11	5/6	一. 通信4号を読む 二. 朗読の練習
12	5/7	一. 自習「やさしい漢字教室」
13	5/10	一. 読書生活の評価 二. 通信を読む 三. 朗読を練習する
14	5/10	
15	5/11	一. 話し合いの進め方
16	5/13	一. 話し合いのしかた 二. 朗読の録音を聞く
17	5/14	一. 話し合い 朗読発表会について
18	5/17	一. 自習について
19	5/17	
20	5/17	一. 自習「やさしい漢字教室」
21	5/20	一. 記録を整える 二. 発表会の準備
22	5/24	一. 日程
23	5/24	
24	5/26	毛筆習字
25	5/27	中間テスト
26	5/31	朗読発表会 第一. 二. 三. 四五グループ
27	5/31	〃
28	6/2	暗唱「大志」清書
29	6/3	朗読発表会 第三. 六グループ
30	6/4	テストの答案を見て 一. お話
31	6/7	朗読発表会 第七. 八. 九. 十グループ
33		
34	6/10	一. 朗読発表会から学んだこと
35	6/11	一. 書こう話そう
36	6/13	クリちゃん

37	6/114	クリちゃん
38	6/14	クリちゃん
39	6/16	クリちゃん
40	6/16	クリちゃん
41	6/17	一. 方を確かめる 二. 発表会の練習 ことば調べ
42	6/18	クリちゃん 一. 資料を整える 二. 発表の準備
43	6/20	
44	6/21	一. 学びたいこと 考えなければいけないこと
45	6/23	ことば調べ
46	6/24	一. 発表 こういうふうに言ったかな、
47	6/25	「クリちゃん」のおはなし 発表
48	6/28	ことば調べ 一. 集める (一) 二. 学習記録
49	6/28	
50	6/30	ことば調べ 一. 風光 清書
51	7/1	ことば調べ 一. さくいんの作り方 二. 記録をしあげる
52	7/2	灯台とハマナデシコ 一. 記録の仕上げ
53	7/5	テスト
54	7/7	灯台とハマナデシコ 一. 真実の練習 (習字)
55	7/8	一. 記録のしあげ
56	7/9	一. お話を書こう「灯台とハマナデシコ」によって
57	7/12	〃
58	7/12	〃
59	7/14	暑中見舞い
60	7/14	一. 夏休みの国語学習について 二. 発表 夏休みの学習つづき
61	7/18	

1979 年度石川台中学 1 年 B 組の国語学習項目が資料 2 である (1 学期のみ記載)。

時間	月日	単元	学 習 内 容
1	4/12	導 入 ・ 学 習 記 録 の 書 き 方 な ど	学習記録の書き方
2	4/16		学習記録の書き方
3	4/17		名前が書いてあるか検査
4	4/18		読む「中学校には」
5	4/19		1. 「中学校には」を読んだ感想 2. 朗読と発表
6	4/21		民話を読む
7	4/23		朗読と発表
8			8~9は不明
10	4/26		

11			テスト	
12	5/1		1. テストの始末 2. 読書生活の記録の書き方 3. 日記・読みたい本	
13	5/2		先生が病気で本を読んだ	
14	5/7		習字	
15	5/8		「文章教室」を読む	
16	5/10		1. 国語教室通信について 2. 読書生活記録の書き方	
17	5/12	I 国語発表会	発表会学習の進め方	
18	5/14		「ひばりの子」を読む	
19	5/15		発表会の内容, 学習の進め方	
20	5/16		グループで話し合う。朗読のくふうの仕方。	
21	5/17		グループの話し合い	
22	5/22		国語発表会の準備と練習	
23	5/23		国語発表会の準備と練習 朗読台本	
24	5/24		国語発表会の準備と練習 テストについて	
25	5/26		国語発表会の準備と練習 プリントの始末	
26	5/29		テスト	
27	5/31		注意と評価, 日程, 練習	
28	6/2		国語発表会第10グ	
29	6/5		国語発表会第9第8グ	
30	6/6		II ことばをひろげ深めよう	
31	6/7		もっとことばを知ろう	
32	6/11		ことばの意味と使い方	
33	6/13		いろいろなことばの使い分け	
34	6/14		ろ う	1. よく知っていることばのいろいろな意味 2. 「話」を中心にいろいろの言葉
35	6/16			文集
36	6/17		国語発表会第7第6グ	
37	6/19		テストの評	
38	6/20		テストの確かめ, 文集	
39	6/21	I 続 き	国語発表会第5第4グ	
40	6/23		国語発表会第3第2グ	
41	6/25		国語発表会第1グ, 講評	
42	6/26		1. テストとは 2. 夏休みの読書 3. 記録のまとめ方	

43	6/27	学習記録	1. 学習記録のまとめ 2. 目次の作り方
44	6/28		学習記録のまとめ
45	6/30		1. 学習記録の仕上げ 2. 木のうた 夏休み 読書
46			46～50は学習記録のま とめ (推察)
51	7/11		学習記録の提出
52	7/14		読書生活の記録, 本紹 介
53	7/17		暑中見舞いの葉書を書 く
54	7/18		文集

1979年度は、「学習記録の書き方」の説明から学習が始められた。実際の学習記録の記入例がてびきプリントとして配布されている。その後、「中学校には」「中学校での学習とは」といった大村はま作成のプリントを読む学習が行われ、小学校とは異なる中学校の国語学習への意識付けがなされた。5月上旬までに「国語教室通信」を用いた学習に関する説明、「読書生活の記録」の書き方の説明といった大村はま国語学習の基本が丁寧に学ばれている。

1975年の同時期を見ると、学習項目としては1979年と同様のものが並ぶが、1979年が入門期学習としてのまとまり、組織性があるのに対して、1975年は1979年ほどの順序性や組織性がなく、まとまり感が少ない。

5月中旬には、両年とも朗読発表会が行われた。1979年は1年間を通して行われる大村はま単元学習の基本構造や学習の方法を身につける入門単元としての「国語学習発表会」であるのに対して、1975年の「朗読発表会」は入門単元としての明確な性格、位置付けがなされていない。例えば、「話し合いの進め方」は1979年では発表会の準備をすすめるための学習として入門単元の中に位置付けられているが、1975年は朗読発表会との関係が明確ではない。

1979年は個々の単元の位置付けが明確でそれぞれの学習活動が組織性を有し次の学習、次の単元へと自然な形で連続している。

(2) 配布されたプリントの比較

1975年1年A組で配布されたプリントの一覧が後掲資料3である。

資料3 1年A組1学期 配布プリント一覧

	プリント名	内容	枚数
1	みんなの座席	座席表	3
2	朗読発表会の準備、グループの話し合いはこんなふうに	てびき	4
3	朗読発表会	てびき	2
4	プリントの書き方	てびき	2

5	テストについて	出題と注意	2
6	答案を見て	解説	3
7	題材集め (作文)	用紙	
8	国語教室通信 (1-9号)	通信	
9	学習記録の作成	てびき	1
10	学習記録のあとがき	てびき	1
11	書こう話そう 学習のてびき	てびき	1
12	「クリちゃん」発表資料 書き方兼下書き用紙	てびき 兼用紙	1
13	発表資料プリントのて びき兼下書き用紙	てびき 兼用紙	1
14	クリちゃんこう言っ てるかな	生徒作 品集	48
15	テストについて	出題	1
16	みんな書けるようにし よう	漢字プ リント	1
17	みんな読めるようにし よう	漢字プ リント	1
18	答案を見て	解説	4
19	灯台とハマナデシコ	教材	1
20	座席表	座席表	1
21	集める (一) てびき「こ ういうときには、どう言 ったらいいか」	てびき	1
22	こういうときには、どう 言ったらいいか 学習 のてびき	てびき	1
23	集める (二) だれがどの ことばの用例を集めて いるか	みんな のこと ば一覧	1.5
24	集める (二) 参考資料	資料	1
25	暑中見舞い	てびき	2
26	読書生活の記録を見て		1
27	暑中見舞い記入用はが き表裏	用紙	1
28	夏休みの国語学習	てびき	1

1979年1年B組で配布されたプリントの一覧が後掲資料4である。

資料4 1年B組1学期 配布プリント一覧

	プリント名	内容	枚数
1	中学校には	心構え	1
2	中学校での学習とは		1
3	座席表	座席表	1
4	学習記録の書き方 例	てびき	1
5	国語教室通信 (1-8号)	通信	
6	座席表	座席表	1
7	自己評価表	評価表	1
8	漢字を使ってことばを 書く	漢字プ リント	1
9	身につける ※漢字	漢字	2
10	六年生のとき習った漢 字、思い出し確かめよう	漢字プ リント	1

11	私たちの国語発表会の内容	説明	1
12	国語発表会 習のてびき	てびき	1
13	グループの話し合いはこんなふう	てびき	3
14	「ひばりの子」朗読台本	台本	2
15	開会のことば・閉会のことば	てびき	1
16	私の発見 —ああ、やっぱりよく書けている—	てびき	2
17	評価表	評価表	1
18	テスト 答えと解説	解説	4
19	国語科テストについて	出題	2
20	テストについて		1
21	大きい(形容詞) 大きな(連体詞)	学習プリント	1
22	国語の力と、その力を計ること。テストとは、どういうことだろう。	てびき	1
23	学習記録作成のてびき	てびき	3
24	夏休みの国語科読書	課題	1

1979年において1975年にないプリントは、「中学校には」「中学校での学習とは」「六年のとき習った漢字」「私たちの国語発表会の内容」「ひばりの子朗読台本」「大きい(形容詞) 大きな(連体詞)」「国語の力と、その力を計ること」である。これらのプリントは次の4つに類別される。

- ・「～とは」という意味付け意識付け
- ・単元での学習概要の説明
- ・取り立て指導的な焦点を絞った学習
- ・具体例を提示するもの

小学校と中学校の学習の違いを文章で示し自覚をもたせた上で、1学期の学習をスタートさせる必要があったのであろう。1975年には授業中の講話といった形で行われていたものが、1979年には2枚のプリントとして文章化されている。

単元の学習については、全体の学習概要をまず示し、学習者が学習全体を大きく捉えた上で、個々の学習活動の意味や位置を捉えやすくする工夫がプリントの形で示されている。全体との関係で現在行っている学習の意味を捉え、何のための学習かといった目的意識をもち、意識的自発的な学習を促している。

「六年生のとき習った漢字」は、1975年には見られないものである。小中の系統をより意識し確実な国語の力を段階を踏んで付けさせていこうとしている。

学習記録の書き方、朗読台本は具体例を示し学習内容を視覚化している。ことばのてびきに加えて完成物の具体を提示している。

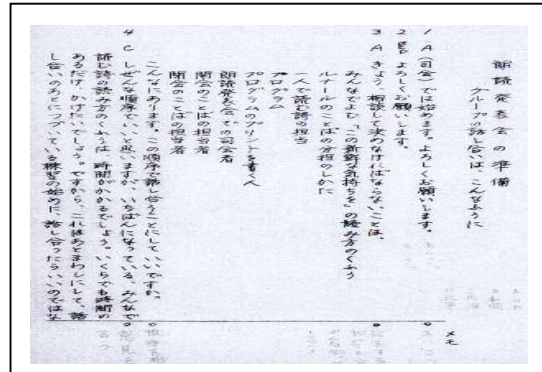
(3) 実際に配布されたプリントの比較

学習項目に「話し合い」があるのは、以下の時間である。

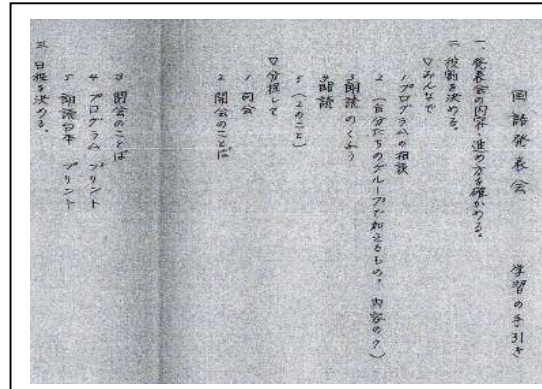
1975年	①14～17 時間目 (5/11～5/17) ②123～129 時間目 (12/11～12/23)
1979年	③20～21 時間目 (5/16～5/17) ④145～147 時間目 (2/13～2/14)

1975年が計11時間に対し、1979年は計5時間である。上の①と③に配布されたてびきプリントの一部を以下に示す。

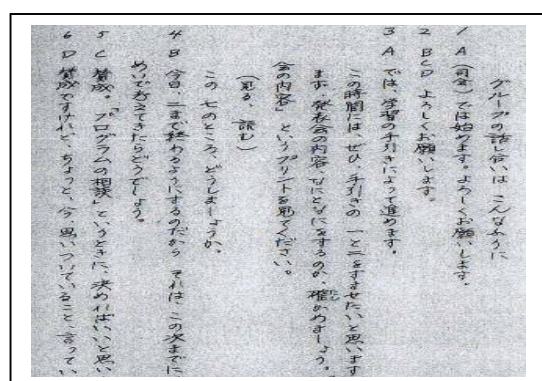
資料5 ①のてびき (1975)



資料6 国語発表会 学習のてびき (1979)



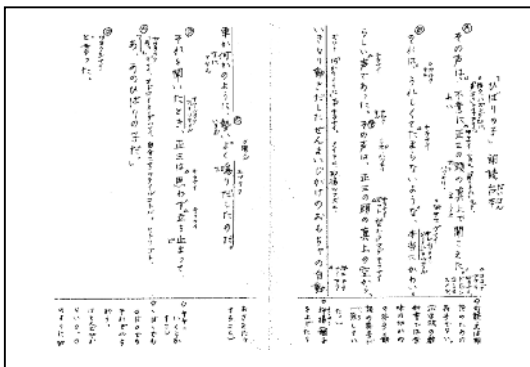
資料7 ③のてびき (1979)



前掲資料5では、今日相談してきめなければならないことは、何々と項目を羅列して示している。それに対して資料6では国語発表会全体の学習のてびきをまず示し、その後別紙で資料7の話し合いのてびきが示されている。③は、学び方を学ぶ単元である「国語発表会」の一部に位置付けられていると同時に、話し合いの仕方の基本を示したてびきになっている。

資料8は具体物を提示するてびきである。

資料8 「ひばりの子」朗読台本(1979)



学習者は資料8のように、グループごとに朗読台本を作成し朗読のくふうの話し合いを重ねて発表会の準備をすすめている。

(4) 成果と今後の課題

1979年は「主体的に積極的に学習生活に取り組む意欲的な子どもにする」「自分の育て方学び方を身につけさせる」が年間国語カリキュラムを貫く目標であった。前者を達成するためには後者が必要であると大村はまが考え年間カリキュラムを組織したと考えられる。単元と単元のつながりや大単元間の小単元の役割についての意識を指導者が明確にもっているか否かが、学習活動の位置付けやてびきの具体にも関わっている。

年間の国語学習や個々の単元の全体像をまず学習者に示し、現在の学習の意味や位置を全体との関係の中で常に捉えさせていこうとする大村はまの強い意識が1979年には働いていたことが明らかになった。

さらに、1979年の言語事項に関する取り立てプリントは、「確実な学力」を育成するための知識を獲得させ定着させる具体的な手立てのひとつである。全体像を捉えさせると同時に、一つ一つの確実な力を積み重ねていこうとしている。基礎基本、知識の習得を決してないがしろにはしていないことが見てとれる。

1979年は、1975年に比べて現在の教科書の単元配列に近い意識が働いている。学び方を身につけさせ、それを他の学習にも転移させようものにするために螺旋的に学びを組織している。

1979年の特徴として以下の8点を見出した。

- ①学習意欲を育てる。
- ②自分の育て方学び方を身に付けさせる。
- ③全体を見通して個々の学習に取り組ませる。
- ④基礎基本を確実に身に付けさせる。
- ⑤完成物の具体を示し学習に取り組ませる。
- ⑥既習の学び方を新しい学習に転移できる力を育てる。
- ⑦小さな失敗の経験、成功の経験を積ませる。
- ⑧学習の振り返りを必ず行い、自己評価から次の目標を自ら設定できる力、自己学習力を

育成する。

本研究では、1979年の実践を1975年の実践と比較することにより、指導者大村はまのカリキュラム意識という観点から捉えることを試みた。学習者が個々の学習過程で何を考え、学んだかという観点からの分析考察は今後の課題としたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計3件)

①坂東智子、『枕草子』指導の可能性—大村はまの単元「古典への門—枕草子によって—」(昭五一)を通して—、解釈(解釈学会)、査読有、60巻5・6月号、2014、21-28

②坂東智子、岩本清子、安部要治、ICT環境を活用した中学校古典授業の開発、山口大学教育学部学部・附属教育実践研究紀要、査読無、13号、2014、89-99

③坂東智子、「伝統的な言語文化」学習で育成する国語学力の構造化案と実践事例—大村はまの単元学習指導「日本の美の伝統をさぐる」(昭和四三)を通して—、解釈(解釈学会)、査読有、59巻5・6月号、2013、53-60

〔学会発表〕(計2件)

①坂東智子、中学校国語年間カリキュラムに関する研究(2)—大村はまの昭和54年度2学期の実践を中心に—、全国大学国語教育学会、2013年10月27日、広島大学(東広島市)

②坂東智子、中学校国語年間カリキュラムに関する研究(1)—大村はまの昭和54年度中学校1年生の実践を中心に—、全国大学国語教育学会、2013年5月18日、弘前大学(弘前市)

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

○取得状況(計0件)

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

坂東 智子 (BANDO, Tomoko)

山口大学・教育学部・准教授

研究者番号：60634764